

デジタル入稿 (InDesign、Illustrator、Photoshop、PDF 等) ご支給時のトラブル例

2014.11 永和印刷

デジタル入稿 (InDesign、Illustrator、Photoshop、PDF 等) でよく発生するトラブルについて、以下にまとめてみました。
ごく一般的なものから、専門的なものまでございますので、詳細については担当営業もしくは DTP 事業部の萩原までお問い合わせください。

	事例	問題点	対策
1 Ai	実際のサイズで作られていない	拡大することで線の太さ、文字の大きさが変わってしまいます	実際のサイズで作成してください。弊社で変更させていただいた場合、校正での入念な確認をお願いいたします
2 Ai	トンボ(トリムマーク)がない、つけていても塗り足しがされていない	印刷・製本で必ず必要です。塗り足し分を拡大することで、写真や文字などが部分的に切れてしまう可能性もあります	断裁位置を示すためにも必ず作成してください (Illustrator のトンボ機能ではなくトリムマークをお願いいたします)
3 Ai Id Ps	CMYK で作成されていない	RGB カラーで作成されていると変換する必要があり、その場合文字が4色になってしまったり、画像の色調が大きく変わってしまいます	作成時のカラーモードをご確認いただき CMYK カラーを選択してください。PDF に変換する場合は事前に設定をお問い合わせください
4 Ai Id Ps	特色の使用が適正でない	4色で作成しているものに特色を使用されていると正しく出力されません。逆に特色とスミの2色の設定で、CやMなどの色を使用される場合も同様です	CやMで作成していただき、印刷時に特色を使用することも可能ですが、校正段階で他のパーツを特色で作成している場合はすべて特色で統一してください
5 Ai Id Ps	1色(モノクロ)印刷なのに画像はグレースケールに変換されていない	見た目がモノクロでも、データではカラーになっている場合があります、そのまま出力すると1色では全く異なる結果になってしまいます	グレースケールへの変換をお願いします。弊社でデザイン・組版する場合は、あらかじめ変換させていただきます
6 Ai	フォントのアウトライン化がされていない、アウトライン化されているために修正できない	弊社で取り扱っていない特殊なデザインフォントを使用される場合に、フォントがアウトライン化されていないと正しく再現されません。逆に、アウトライン化することで、こちらで修正できない場合もございます	データに修正が必要なケースではアウトライン化することの弊害がございますので、ご支給の際に使用フォント一覧を添付してください。対応できないフォントについてはご相談させていただきます
7 Ai Id	オーバープリントの設定の問題で印刷時に文字が消えてしまった、色アミに地色がすけてしまった	色地の上に白や薄い色の文字をオーバープリントの設定でのごせると、色地が透過されて文字が消えたり、うすくなってしまいます。一方でオーバープリントの設定をしないことで抜き合わせの問題が生じることもあります	Bk(スミ)100%の場合は、自動的にオーバープリントの設定になります。オーバープリントにたくない場合は99%に設定するとよいです
8 Ps	印刷時の画像が、モニターでみていたものよりも粗くなってしまった	カラー印刷の場合、一般的に使用サイズで350dpiの解像度が必要とされています。Webで使用した画像(72dpi)を流用すると解像度が十分ではありません	解像度を落としていないデータがあればそちらに差し替えてください
9 Ai	パターンやドロップシャドウなどのオブジェクト効果を使用したら、印刷時に消えてしまったり、形状が変わるなどの想定しない結果になってしまった	パスの多い複雑なものや、パターンやドロップシャドウなどのオブジェクト効果を使用する場合、データが重くなり印刷・出力時に不具合を発生させる危険性があります	特殊なパターンや効果をご使用されている際にはラスターサイズ化(ビットマップ画像化)するか、ご使用内容をお知らせください
10 Ai Id	細い線やうすいアミの罫・点線が印刷時に思ったおりに再現されなかった	20%以下のアミ濃度や0.1ミリ以下の罫線を使用する場合、印刷では濃度を網点の大きさと表現するため、モニターのイメージと異なります	実線であってもアミ濃度がうすい場合には、それだけで点線になってしまいますので、ご注意ください(0.07ミリ以下は実線でも使用は避けたほうが望ましいです)